
長靴～ブランコの揺れる雨上がり～

遮那-shana-?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

長靴くブランコの揺れる雨上がりく

【Nコード】

N7981T

【作者名】

遮那 - shana - ?

【あらすじ】

少年が長靴に出会い、少女に出会い…そんな雨上がりの短編です。

(前書き)

ワープロに眠っていた、自分でも当時の心情をよく覚えていないという上に稚拙丸出しな小説。よっぽど暇だったんじゃないかと。

振り向くと、赤いブランコが揺れていた。その側には長靴が片方だけ落ちていた。

この短時間で、小さな子供がブランコに乗っていたとでもいうのだろうか。それに片方、長靴を落として。

少年は奇妙に思ったが、好奇心からその長靴に近づいた。

水玉模様の青い長靴についている水滴が、眩しいほどに光を反射している。

「…あの」

突然後ろから肩を叩かれた。

不意を突かれ、少年はびっくりと肩を竦めて振り返る。

後ろに立っていたのは、少年と同じくらいの背の少女だった。そのすぐ後ろには何故か長靴が落ちていた。

「その長靴、弟のなんです」

少年は少女の言葉で、ブランコの側の長靴に視線を落とした。よく見ると、少女の後ろにある長靴と同じもののような。

「ああ、うん。忘れ物？」

少年の問いに、少女はまだ幼さの見え隠れする綺麗な笑顔で頷く。

そして弟が忘れていったという長靴を手にとると、自分の後ろの長靴の横に並べた。

「ありがとう。これがないと駄目だから、この子」

少女はそういつて少年にくるりと背を向けると、長靴を拾うこともせずそのまま歩き出した。

少年はそれを見て少女を呼び止めようとしたが、瞬間息が詰まる。

——歩いている。

綺麗に並べられた小さな長靴が、まるで命を吹き込まれ少女の隣を歩くように片方ずつ地面から離れるのだ。

少女が角を曲がり見えなくなると、少年はふいに違和感を感じて強

く握りしめていた右手を開いた。

つるつるとした緑色のどんぐりが、手のひらで小さく転がる。いつから握っていたのだろうか。

少年は笑ってそれを握りしめると、まだ温もりの残る赤いブランコに腰掛けた。

瞼の裏に残る、弾むような足取りで少女の隣を歩く長靴。その見えない後ろ姿に、そっと呟く。

「どういたしまして」

何もしてないけど、と笑う少年の肩に、雨粒がひとつ優しく落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7981t/>

長靴～ブランコの揺れる雨上がり～

2011年10月9日04時56分発行